

まちあるきを通じた地域資源の認知および地域評価の変化が地域愛着に与える影響に関する研究 —藤沢市片瀬地区の住民を対象として—

1982024 小林 夏月

指導教員 高見沢実教授 野原卓准教授 矢吹剣一准教授 尹莊植助教

1 研究の背景と目的

地域資源を活用したまちづくりが全国各地で推進されている。地域資源の活用には、地域資源の発掘と住民同士の共有が不可欠である。その手法の一つとしてまちあるきを提案する。住民がまちあるきを通して普段の生活で使っている空間を見直すことで地域資源の発見や共有が見込める。また、地域の魅力や現状を再認識し、地域への関心・評価につながると考えられる。まちあるきを通して、地域資源を認知し、地域を再評価することで住民の愛着が高まると推測する。

既往研究には地域の物理的環境および社会的環境への評価と住民の地域愛着の関係性について示した引地ら¹⁾の研究や地域の潜在的な価値発掘に関して景観資源まちあるきマップの有効性を示した小川²⁾の研究がある。

本研究ではまちあるきを通して、住民の地域資源の認知状況や地域に対する評価の変化が地域愛着に与える影響、ならびに地域資源の発見や再評価の手法としてのまちあるきの有効性と今後の課題や可能性を明らかにすることを目的とする。

2 研究の対象と方法

本研究では調査対象を藤沢市片瀬地区とした。

まず郷土資料等の文献調査と現地調査より、対象地の地域資源を抽出し、マップを作成した。史跡などが集中している江ノ島道^{注1)}の一部を中心に、所要時間1時間程のまちあるきコースを設定した。

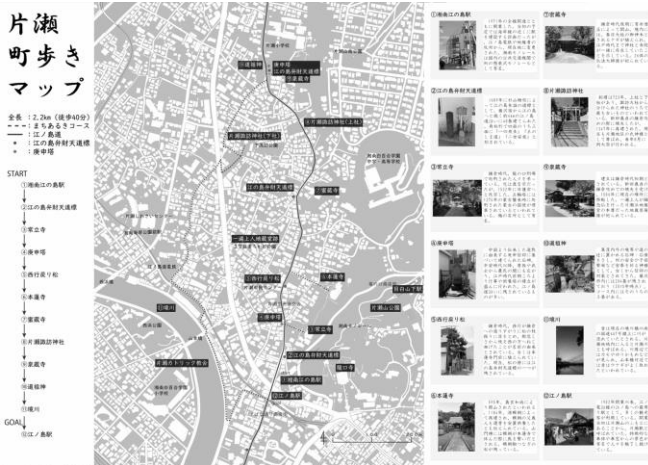


図1 地域資源マップ表面^{注2)}

次に片瀬地区の住民を対象にまちあるき実証調査を実施した。作成したマップを使用してまちあるきをし、地域に対する評価と地域愛着の変化を把握するため、まちあるき前後でアンケートに回答してもらった。マップで紹介した各地域資源については、まちあるき中に口頭でそれぞれ簡単な解説を行った。また、地域資源の発見の手法としてのま

ちあるきの効果を分析するため、魅力的だと感じたものを撮影し、写真と理由を回答してもらった。

表1 アンケートの質問内容

	回答方法	質問項目	回答場面
地域全体の評価	SD法	活気、景観、歴史性、自然など	前後
愛着の強さ	5件法	地域に愛着を感じているかなど	前後
地域資源の認知	選択式	解説する地域資源のうち知らないもの数	前のみ
地域資源の発見	撮影調査	まちあるき中に発見した地域資源について	後のみ
個人属性	選択式	性別、年齢、居住年数など	前のみ
まちあるきの印象	選択式	解説・マップに対する評価など	後のみ
自由回答	自由記述式	感想、マップの改善点	後のみ

2022年11月の8日間で住民19名の回答を得た。また、住民を対象とした調査と並行して、比較分析のため、来街者を対象とした調査を実施した。対象地域外に居住している大学生6名に片瀬地区内の指定したコースをGoogleマップの地図のみで事前に約30分歩いてもらい、その後住民と同様の実証調査を行った。

表2 調査参加人数と天候

日	住民(人)	学生(人)	天候	日	住民(人)	学生(人)	天候
11月13日(日)	2	0	曇り時々雨	11月19日(土)	2	2	晴れ
11月14日(月)	1	0	曇り	11月20日(日)	5	0	雨
11月17日(木)	1	1	晴れ	11月23日(水)	1	1	雨
11月18日(金)	1	0	晴れ	11月24日(木)	6	2	晴れ

3 まちあるき実証調査

3-1 地域評価の変化

まちあるき前の時点で地域に対して肯定的な印象を持っている人が多かった。地域に対する評価の平均が全ての評価軸でまちあるき後に上がった。

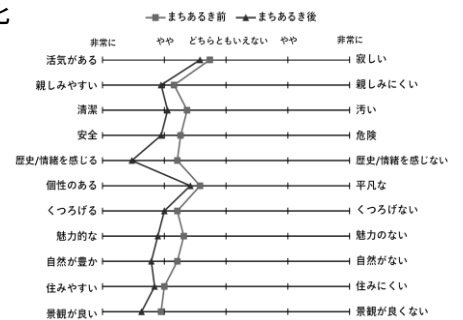


図2 まちあるき前後の評価の変化

特にまちあるき後は歴史性、景観の良さの評価が高く、歴史性の評価は変化が非常に大きい。評価軸によって変化の度合いは異なり、本調査では寺社や文化財などの解説が多かったことが歴史性の再評価につながったと考えられる。紹介・解説する地域資源の性質によって、まちあるきを通じた評価の変化の傾向は変わると推測される。

3-2 地域愛着の変化

まちあるき前から既に高い愛着を持っている人が多く、まちあるき前後で愛着度が大きく変化した人は少なかった。一方で、まちあるきを通して、ほとんどの質問で愛着度の強い回答が増加した。特に⑤の回答

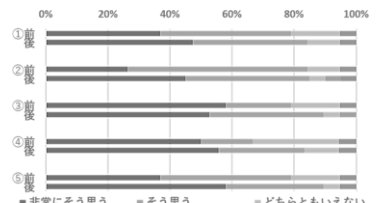


図3 まちあるき前後の愛着の変化

はまちあるき前後でより肯定的な回答(非常にそう思う、そう思う)に変化する人の割合が高かった。新たに地域資源を知ったことや史跡の多く残る江ノ島道沿いを歩いたことが影響していると考えられる。まちあるきによって、地域に対して感じている愛着そのものが変化する人は少なかったが、愛着につながりうる地域への願望や個人の嗜好を強くすることが分かった。

3-3 地域資源の認知状況と地域愛着の変化の関係

愛着についての各質問の「全くそう思わない」を1点～「非常にそう思う」を5点として重み付けた。解説した地域資源の中でまちあるき前に存在を知らなかったものの数と愛着に関する各回答のまちあるき前後の変化量には相関は見られなかった。このことから、まちあるき前での地域資源の認知状況はまちあるきを通じた愛着の変化に影響しないといえる。

3-4 地域評価の変化と地域愛着の変化の関係

地域に対する評価について各評価軸の「非常に(否定的評価)」を-2点～「非常に(肯定的評価)」を2点として重み付け、愛着変化との関係を分析した。各評価の変化量の合計と愛着に関する各回答の変化量には⑤の質問(図3)を除いて相関はなかった。⑤の回答の変化量には評価の変化量との正の相関が見られた(相関係数0.35)。

3-5 地域資源の認知状況と各評価軸の変化の関係

まちあるき前に存在を知らなかった地域資源の数は歴史性、景観に関する評価での変化と正の相関関係(相関係数0.35, 0.49)、活気、住みやすさに関する評価の変化と負の相関関係(相関係数-0.33, -0.30)にあった。

3-6 地域資源の発見と共有

まちあるき中に魅力的だと感じたものの写真と選定理由について分析を行った結果、自然、寺社・史跡、特徴的な建物、遠景、アート展示、その他に大別された。解説した場所以外での写真を回答してもらうように説明したものの、解説した寺社内のもので選定されることが多く、境内以外での街並みや遠景を回答する人は少なかった。まちあるきや解説を通して初めて知ったものを挙げる人が非常に多く、まちあるきの解説が地域資源の共有に有効である一方で、解説されたものに注目が集まるため、新しい地域資源の発見にはつながりにくいことが示唆される。

3-7 まちあるきの評価と効果

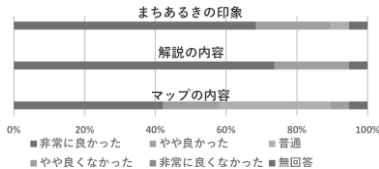


図4 まちあるきの印象および解説内容・マップの評価

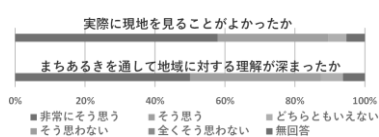


図5 現地を見ることに対する評価およびまちあるきによる地域の理解

まちあるきに参加した印象や解説内容は評価が高いが、マップについては比較的评价が低かった。また、大部分の人がまちあるきで実際に現地を見ることに肯定的な回答となった。マップの情報以上に実際に現地を歩くことや解説内容がまちあるき

前後の地域に対する評価の変化と関係していると推測される。また、まちあるきを通して大多数の参加者が地域に対する理解が深まったと回答しており、参加者の約半数が20年以上対象地域に居住していることを考慮すると、地域についてよく知っている住民にとってもまちあるきは地域の理解を深める効果があることが示された。まちあるきの印象は地域評価の変化とやや正の相関関係が見られた(相関係数0.30)。一方で、解説やマップの内容の評価、地域に対する理解の深化と地域に対する評価の変化に相関はなかった。

3-8 学生(来街者)との比較

住民の結果と比較して、まちあるき前の愛着が非常に高い人は少ないが、まちあるきを通して愛着が高まる傾向が見られた。また、地域に対する評価の変化が大きく、まちあるき後に自然性や住みやすさの評価が下がった点が特徴的である。住民と同様に歴史性の評価がまちあるき前後で最も大きく変化した。まちあるきの評価については、全学生が地域に対する理解が深まったと回答しており、住民だけでなく来街者にとってもまちあるきは地域に対する理解を深める手法の一つといえる。

4 まとめ

4-1 まとめ

まちあるきを通して、住民の地域愛着および地域に対する評価が高まることが示された。まちあるき前の地域資源の認知状況は愛着の変化に影響せず、地域に対する評価の変化と愛着の変化にはほぼ関係はなかった。

また、住民を対象としたまちあるきは地域の理解や地域資源の共有の手法として有効であることが明らかになった。一方で、解説やマップを用いた場合はそれらの情報にとらわれやすく、新たな地域資源の発見にはつながりにくいと考えられる。目的に沿ってマップの情報や解説の有無、コース設定を考える必要がある。

4-2 今後の課題

本研究の課題として、十分なサンプル数を集められなかったこと、特に新規居住者などのまちあるき前に持っている愛着度が低いと思われる住民のサンプル数を集められなかったことが挙げられる。また、対象地域や紹介する地域資源の性質によって評価の変化の仕方は大きく異なると推測される。

参考文献

- 引地博之・青木俊明・大淵憲一(2009)「地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—」土木学会論文集 D 65 巻 2号 pp. 101-110
- 小川明徳(2017年度)「景観資源まち歩きマップを用いた地域価値発掘に関する研究—横須賀斜面住宅地を対象として—」横浜国立大学学士論文

注

- 藤沢宿遊行寺の前から江の島弁財天に参詣する道。江戸時代に庶民の間で弁財天信仰が盛んとなり、多くの参詣客で賑わった。
- マップ裏面には補足情報として、江ノ島道の概要や片瀬地区の歴史、古地図との比較分析、民話などを載せた。